

氏 名：高畑 香織
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 153 号
学位授与年月日：2017 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 森 明子（聖路加国際大学教授）
副査 堀内 成子（聖路加国際大学教授）
副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学准教授）
副査 篠原 一之（長崎大学教授）

論 文 題 目：Oxytocin levels in low-risk primiparas following breast stimulation for spontaneous onset of labor

博士論文審査結果

本研究は、20～39 歳のローリスク初産婦が妊娠 38～40 週の間に妊婦自身で乳頭刺激を加えることが妊婦の唾液オキシトシン値に変化を起こすか、自然陣痛を発生させるか、また、乳頭刺激のプロトコルの実行可能性はあるかを確かめるために行われた、対照群を有する時系列デザインの準実験研究である。42 名の初産婦を前半対照群(20 名)、後半介入群(22 名)に割り当てた。対照群は通常ケアを受け、介入群は妊婦自身が 1 日 1 時間の乳頭刺激を 3 日間実施した。その結果、唾液オキシトシン値は、1 日目の介入前値を共変量とした調整済み平均値において、3 日目介入 30 分後に、介入群は対照群よりも有意に高値であった。自然陣痛発生の割合は両群に差がなかったが、介入群の子宮収縮の頻度は対照群のそれよりも有意に多かった。プロトコルの実行可能性は、妊婦の受容性が得られた。一方、オキシトシン値の測定可能な唾液量の検体数を完全に採取できた対象者は、介入群で 13 名、対照群で 11 名に止まり、唾液採取の実行性に関し課題が残った。

審査においては、主に 3 つ指摘がなされた。第一にアウトカム指標の測定結果、アウトカム指標とする上での課題に関する考察の不足である。ベースラインにおける両群の唾液オキシトシン値に差がみられた点、唾液オキシトシン値が介入後 30 分で上昇し 60 分、75 分と時間が経つと下降する動態を示した点、両群の唾液オキシトシン値の動態に差がなくても子宮収縮の頻度は差があり介入群に多くみられた点に関する解釈、説明が考察に必要であるとされた。第二にプロトコルの実行可能性についての考察の不足である。唾液採取の実行性における課題への着目と検討が欠けているとされた。第三に研究目的から研究仮説・結果・結論までの記述の一貫性、方法論における記述の不備に関する指摘である。研究目的に沿った一貫性ある記述への修正、唾液オキシトシン値を選んだ理由、「オキシトシン・レベル」の指す意味、オキシトシン測定地点（介入後 30 分、60 分、75 分）を定めた理由、乳頭刺激の方法の予備研究からの変更内容などの説明を加える必要があるとされた。これらの不足に関しては本研究課題に必要な知識や理解の度合いを確認され、弱点を指摘される場面もあった。しかし、乳頭刺激と唾液オキシトシン値の関連を調べるために予備研究を重ね周到に実験研究に取り組んだこと、ゆえに明らかになった課題と今後の研究に対する貴重な示唆を得たこと、英文論文に仕上げていることが評価された。なお審査委員全員により、修正点の確認がなされている。

以上により、本論文は本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。